

思川開発事業監理協議会・幹事会資料

平成27年 3月23日

独立行政法人 水資源機構

目 次

1. 平成26年度事業実施概要	1
2. 平成26年度事業実施概要図	2
3. 現地状況写真	3
4. 進捗状況	8
5. コスト管理	9
6. 平成27年度予算	14

1. 平成26年度事業実施概要

○ 平成26年度予算額

- ・ 約19.0億円（累計 約851億円[※] 約46%） ※累計額は、平成24年度までは精算額、平成25年度は精算見込額、平成26年度は予算額

○ 事業概要

- ・ 付替県道工事、水理調査及び環境調査等を実施した。

○ 主な進捗状況（平成27年2月末現在） ※【 】は全体数量

- ・ 用地取得 【 375ha 】 : 累計約369ha、約98%の進捗
- ・ 付替県道 【 6.4km 】 : トンネル設備、栗沢7工区工事等を実施。累計約4.2km、約66%の進捗
- ・ 県道改良 【 13.2km 】 : 累計約13.1kmとなり、約99%の進捗（約12.1km供用済）

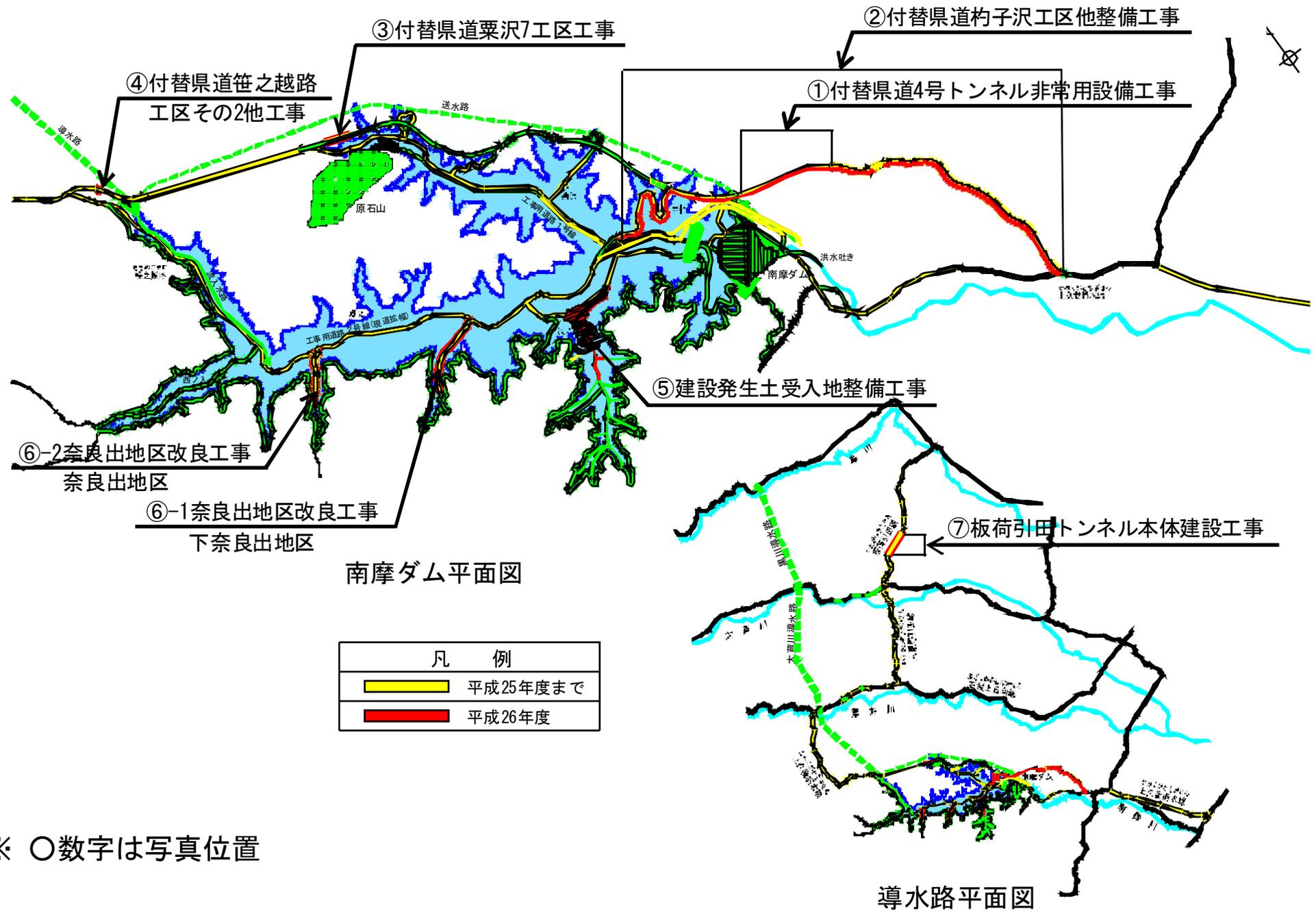
○ コスト増減

- ・ 平成26年度の事業執行において、奈良出地区改良工事の道路構造の見直し等による縮減を図った。（約 6百万円減）
- ・ 平成26年度の事業執行において、板荷引田トンネル工事の地質状況に応じた法面対策工等の追加によりコストが増加した。（約 125百万円増）

○ その他

- ・ 平成26年7月に治水に係る再評価について関東地方整備局事業評価監視委員会に諮り、「新たな段階には入らず、現在の段階（転流工段階）を継続することが妥当」との評価。

2. 平成26年度事業実施概要図



※ ○数字は写真位置

3. 現地状況写真

① 付替県道4号トンネル非常用設備工事（完成）【工期 H25.12~H26.7】

H25.12



H26.07 警報表示板



H25.12



H26.07 非常電話機、押ボタン式通報装置（トンネル内）



② 付替県道杓子沢工区他整備工事（完成） 【工期 H25. 9～H26. 6】

H25. 09 6工区上流側



H26. 06



③ 付替県道粟沢7工区工事【工期 H25. 8～H27. 3】

H25. 11



H27. 02 ブロック積施工状況



④ 付替県道笹之越路工区その2他工事（完成） 【工期 H25. 11～H26. 6】

H25. 11



H26. 06



⑤ 建設発生土受入地整備工事（完成） 【工期 H26. 3～H27. 2】

H26. 03



H26. 09 暗渠排水管敷設状況



H27. 02



⑥-1 奈良出地区改良工事（完成） 【工期 H26. 3~H27. 2】

H26. 04 下奈良出地区



H27. 02



⑥-2 奈良出地区改良工事（完成） 【工期 H26. 3~H27. 2】

H26. 04 奈良出地区



H27. 02



⑦ 板荷引田トンネル本体建設工事【工期 H25. 12~H28. 3】

H25. 08 引田側



H27. 02 道路工施工状況



H27. 02 坑口



H27. 02 坑内掘削状況



4. 進捗状況（平成27年2月末現在）

補償基準他	H13.12 損失補償基準に関する協定書調印				
用地取得(南摩ダム) (375ha)	98% (369ha)				
用地取得(導水路) (3.159ha) 区分地上権設定含む	100% (3.159ha)				
家屋移転 (80世帯)	100% (80世帯)				
代替地造成	100% (31世帯)				
付替県道(約6.4km)	64%				66% (4.2km)
県道改良(約13.2km)	92%				99% (13.1km)
ダム本体及び関連工事	仮排水路トンネル (H23.3完成)	基礎掘削	ダム本体内工	管理設備	試験湛水
導水路、送水路 及び関連工事	黒川取水放流工 大芦川取水放流工	黒川導水路 大芦川導水路	南摩注水工	送水路	南摩機場

完成 契約 ----- 付替県道

完成 契約 ----- 県道改良

完成：工事が完成した道路延長比（未供用を含む。舗装、付帯設備の未施工を含む）
契約：工事を契約した道路延長比

5. コスト管理

(単位：百万円)

項 目	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	合 計
コスト縮減	△77	△618	△207	△216	△2	△6	△3	△6	△1,135

(単位：百万円)

項 目	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	合 計
コスト増加	0	0	221	124	77	6	47	125	600

(単位：百万円)

項 目	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	合 計
業務執行上の結果 (低入札)	0	△580	△1,316	△91	0	△23	△56	△37	△2,103

(単位：百万円)

項 目	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	合 計
執 行 額	520	5,590	3,115	1,994	81	398	751	1,142	13,591

※工事費と補償工事費の合計

平成26年度コスト増減総括表

(単位：百万円)

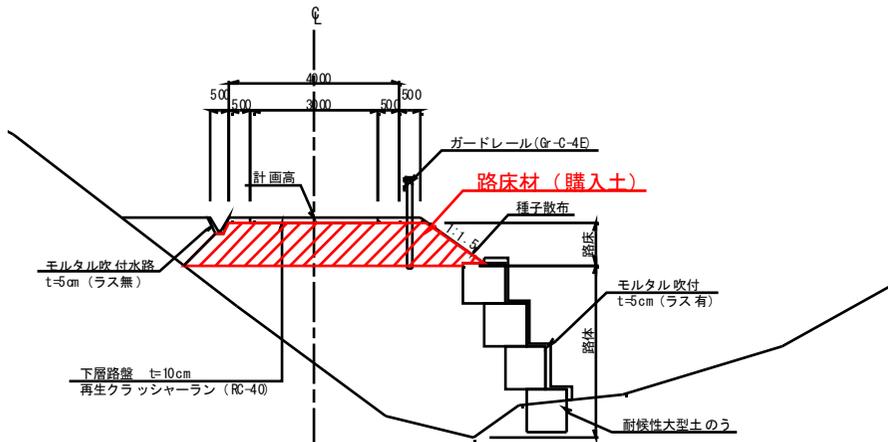
項目	施策内容	縮減額	主な縮減内容	備考
◎コスト縮減		約 6		
○計画・設計段階の見直し				
	①進入路工事における路床材の見直し	約 2	路床材に他工事で発生した掘削ずりの使用	P. 11
	②盛土部土留め工法の見直し	約 4	盛土部土留めのかごマットを耐候性大型土のうに変更	P. 12
○施工段階の見直し				
		—		
○その他				
		—		

項目	施策内容	増加額	主な増加内容	備考
◎コスト増加		約125		
	③地質状況による坑口部法面対策等の追加	約125	法面保護工等の追加	P. 13

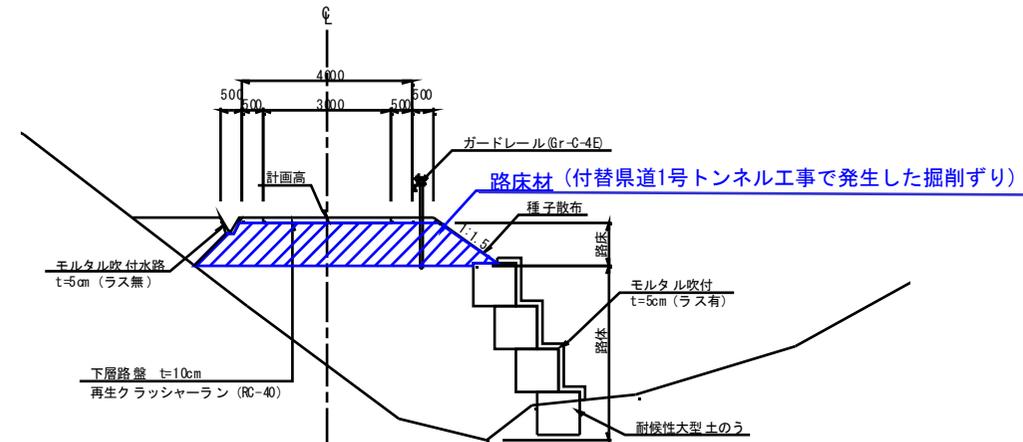
◎コスト縮減

① 進入路工事における路床材の見直し

当初（購入土）



見直し後（付替県道1号トンネル工事で発生した掘削ずり）



奈良出地区改良工事

【コスト縮減内容】

路床材に購入土を使用する設計だったが、付替県道1号トンネル工事で発生した掘削ずりを使用することにより、工事費を縮減することができた。

【コスト縮減の要因】

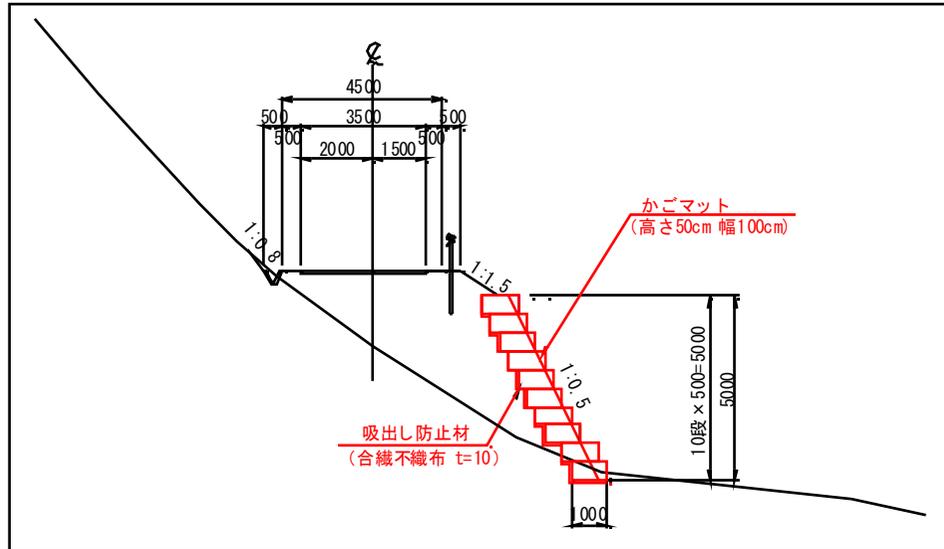
計画・設計段階の見直し

【縮減額】

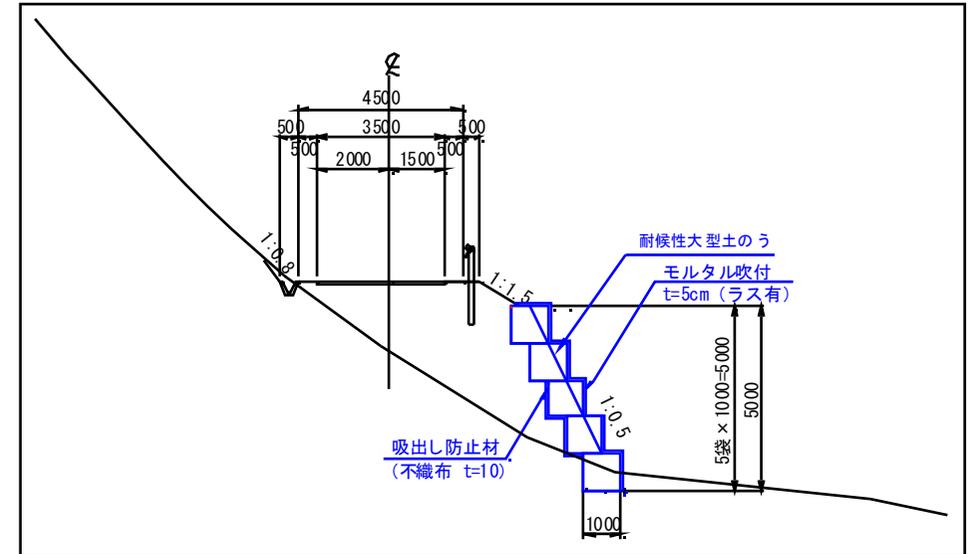
約2百万円 対象費目 [用地費及補償費：補償工事費]

② 盛土部土留め工法の見直し

当初（かごマット工）



見直し後（耐候性大型土のう積）



奈良出地区改良工事

【コスト縮減内容】

盛土部土留めをかごマット工による土留めで計画していたが、「耐候性大型土のう積層工法」設計・施工マニュアルの発刊により、道路盛土高8m程度までは耐候性大型土のう積を適用できることとなったため、工事費を縮減することができた。

【コスト縮減の要因】

計画・設計段階の見直し

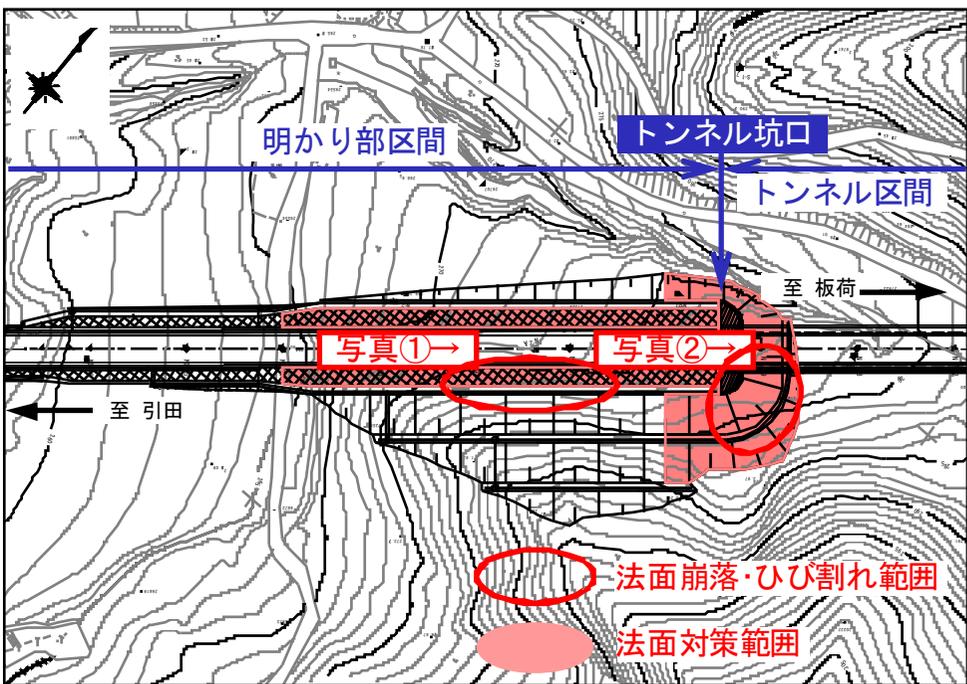
【縮減額】

約 4 百万円 対象費目 [用地費及補償費：補償工事費]

◎コスト増加

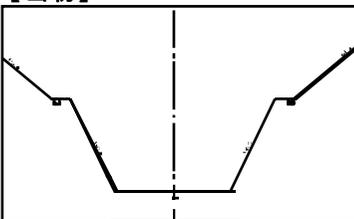
③ 地質状況による坑口部法面对策の追加

平面図

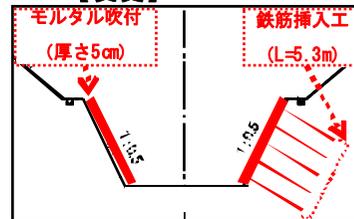


【坑口手前の法面对策の追加】

【当初】

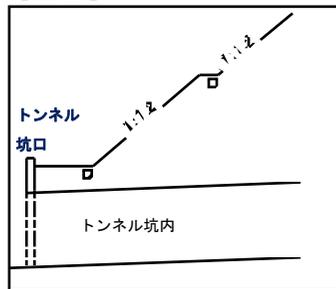


【変更】

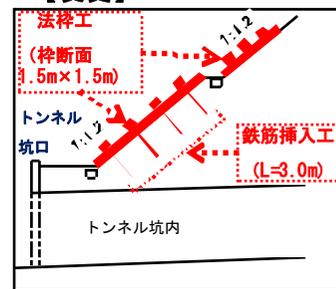


【坑口上部の法面对策の追加】

【当初】



【変更】



法面の状況

写真①(坑口手前の法面状況)



↓
モルタル吹付工・鉄筋挿入工を追加

写真②(坑口上部の法面状況)



↓
法枠工・鉄筋挿入工を追加

板荷引田トンネル工事

【コスト増加内容】

坑口手前の法面の土質は、ボーリングの結果に基づき軟岩相当を想定していたが、想定以上に風化が著しく亀裂も多く確認され一部で崩落が発生したこともあり、トンネル本体工事実施中の安全確保のためモルタル吹付及び鉄筋挿入にて安定化を図った。

坑口上部の法面は客土吹付による植生工を計画していたが、降雨時に法面からの湧水が確認された箇所については吹付法枠工、ひび割れが確認された部分については浅層崩壊を防ぐため吹付法枠及び鉄筋挿入にて安定化を図った。

【コスト増加の要因】 坑口部法面对策工の追加等

【増加額】 約125百万円 対象費目 [工事費：仮設備費]

6. 平成27年度予算

- ・平成27年度予算については、平成27年 1月14日に政府予算案が公表され、思川開発事業については19.0億円が計上されている。
- ・思川開発事業は検証対象であり、引き続き「新たな段階に入らない」ことを基本としつつ、早期の対応方針決定を目指すとともに、地域の意向を踏まえつつ、生活再建事業等を着実に進めるために必要な予算が計上されている。